



Newsletter October 2007

Dear friends and future volunteers

今回のニュースレターは、世界の子供たちのための闘いについてお送りいたします。

世界では、多くの子供たちが、学校へ行く代わりに働くこと強いられています。この状況に対し、Humana People to People と他の NGO は協力して、これらの状況を改善・向上するための活動を行っています。

子供たちは、世界の未来を担っています。そのため、この活動は、子供たちと私たちの将来のためのものです。子供たちは、未来をもたらし、創っていき、それらに挑戦していきます。私たちは、彼らを助け、公的な権利を与える必要があります。

子供たちの条件について記述している統計は、私たちに何らかの行動を起こす必要性を伝えています。

今回の記事で、Humana People to People が実施しているチャイルド・エイドと学校のプロジェクトを紹介します。これらのプロジェクトは、私たちが成し遂げることのできる良い例の 1 つです。私たちは、現地の村と町で子供たちと共に一緒に働き、活動を行います。

人権とは、全ての年齢に与えられるものです。子供たちには、大人たちと同様の一般的人権があります。しかし、子供たちは特に弱い存在でもあります。そのため、彼らには、「子供の権利」という、彼らを特別に保護することを認めた権利があります。「子供の権利」とは、子供たちが生活するにあたって、主に 4 つことを保護することを定めたものです。それは、生きる権利、育つ権利、守られる権利と参加する権利です。しかし、これらの権利の存在にも関わらず、子供たちは貧困、ホームレス、虐待、蔑視、防ぎうる病気、そして教育と司法制度への不平等なアクセスで苦しんでいます。そしてこれらは、工業化にある国や発展途上国で起こる問題です。

インド

インドには、世界のどの国よりも多い、3 億 7500 万人の子供たちがいます。彼らの状態は、この 50 年で向上しました。幼児生存率は増加し、学校中退者は減少し、そして、いくつかの政策が国家・国際レベルで政府によって作られました。国家による資源分配は、しかしながら、幼児と子供たちの教育、発達と保護、健康管理を多く必要とする現状の前には、全く不十分なままです。



インドでは、14 歳未満の子供たちは、インド労働者全体の約 3.6% 占めます。これらの子供たちのうち、毎回、10 人のうちの 9 人は、彼ら自身の家族を支えるため働いています。ほぼ 85% は、伝統的な農業活動に携わり、9% 未満が、製造、サービスと修理の仕事に携わっています。そして、わずか約 0.8% は、工場で働いています。

インド政府は、国内の幼児労働の根絶を強く訴えています。この世界最大の幼児労働根絶プログラムは、インドで多数の民間・ボランティア組織と一緒に、草の根レベルで実行されています。



Newsletter October 2007

南部アフリカ

社会とは、その社会が子供たちに与える生活の質で判断されます。

現在の南部アフリカの人々約 4000 万人のうち、ほぼ 1800 万人は子供たちです。そして、そのうち 900 万人が少女です。大部分の子供たちは、保護、食物、衣類、教育などの欠如による異なる問題にあります。

失業、貧困、犯罪、児童虐待など、彼らの生活は、困難と苦しみ、不安定な状態にあり、生活を楽しむための時間は少ないです。



アフリカの統計は以下のとおり；

- 19,000 の子供たちが、毎日、治療可能な病気によって亡くなっています。
- HIV に感染している 15 歳未満の子供たちのうち、80%がアフリカの子供たちです。
- アフリカ労働力の 17%は、子供たちから成ると見積もられています。10 歳～14 歳の子供たちのうちの 25%は、労働に関与しています。
- セネガル政府は、5 万～10 万人の子供たちは、乞食であると推測しています。
- ケニアの子供たちの 21%は、学校に通っていません。
- ナイロビでは、毎日、約 130,000 人ものストリートチルドレンが存在すると見積もられています。
- ルワンダでは、最近の内戦の結果、約 200,000 人の孤児がいます。

5 歳以下で亡くなる子供たち；

- ケニアでは、35%はエイズで亡くなります。
- ナミビアでは、48%はエイズで亡くなります。
- 南アフリカでは、50%はエイズで亡くなります。
- ジンバブエでは、50%はエイズで亡くなります。
- ボツワナでは、64%はエイズで亡くなります。

Humana People to People

Humana People to People が 1990 年に、チャイルド・エイドを設立して現在 14 年です。チャイルド・エイドは、世界の子供たちの生活状況の改善・向上することを目的とする、ユニセフの要求に応じて設立されました。



Humana People to People は、12 の国々で 25 のチャイルド・エイドを実施しています。チャイルド・エイドは、コミュニティと統合して行う活動です。子供たちを支える両親とコミュニティの理解、彼ら自身で解決法を見つけ、開発を行い、コミュニティで、人々がお互いを助け合う活動を行います。チャイルド・エイドの目的は、コミュニティ生活の全ての面を支え、コミュニティを強化することにあります。



Newsletter October 2007

チャイルド・エイドの活動内容

1. 家族の経済を強化すること
2. 健康と衛生 -HIV/AIDS との闘い
3. 幼稚園
4. 社会、文化、社会の経済範囲で活動する子供たち
5. 両親のない子供たち
6. 教育
7. 地域開発
8. 環境



マラウイ・Lilongwe

この活動は、2000年10月に Chiwamba で始まりました。プログラムの主な目的は、Chiwamba 地区で 14,000 人の子供たちの健康、食糧安全の保障、教育と生活状況を改善することです。このプロジェクトは、コミュニティからの援助で、31 の幼稚園を運営しています。幼稚園のプログラムでは、小児病気の処置のための活動を取り入れています。トウモロコシの小麦粉とソイヤ豆の混合物から作られる栄養価の高いオートミール（おかゆ）が、学校で用意されます。

ザンビア・Mkushi

この活動は、1990年8月に Mkushi で始まりました。教育、健康管理と食糧安全の中で、彼らの生活水準を改善するために、地方の家族に公的な権限を与えています。

この活動は、子供たちが教育、十分な健康管理と食物を入手することを確実にすることを目的に置き、家族の発展を優先にしました。これは、ザンビア・Mkushi の Development Aid from People to People (Humana People to People の別称) による社会的開発プロジェクトのうちの 1 つです。



5,000 の家族がプロジェクトに参加し、Humana People to People チャイルド・エイドプロジェクトの 10 つの方針の下、進められます。

プロジェクトでは、経済水準の向上をはかる活動を通して、家族の経済を強化し、収穫と動物の生産を向上させました。ミツバチ保護、養魚、プランテーションと養豚場を経営して、彼らの経済水準の向上を図り、また、活動地域の女性は、編み作業、パン作り、家庭菜園作り、農作業するなどをして、資金調達活動に乗り出しました。



このプロジェクトは、現地スタッフの訓練を積極的に行っています。例えば、コミュニティに基礎を置くエイズ教育と、家庭に基礎を置く介護者による末期病状患者の支援を奨励し、村の水の場所がきれいに保たれ、Mkushi で安全な飲料水を人々に提供することを確実にする活動を行っています。また、マラリアと結核のような命を奪う病気に関して、人々を動員して、教育しています。



Newsletter October 2007

その他にも、34 のコミュニティ幼稚園と一緒に働き、幼稚園の教師を訓練しています。例えば、教材の作り方を教えることで、子供たちが幼稚園で楽しく易しく学べる活動も行っています。

モザンビーク・Nhamatanda

1997 年に、チャイルドエイド Nhamatanda は、モザンビークの地区で、その活動を始めました。この活動は、1997 年に Nhamatanga の Lamego で始まりました。活動の目的は、子供たちや彼らの家族、コミュニティなど、これら全体の生活の向上です。

現在の予想では、100 万人以上のモザンビークの人々が、HIV/AIDS に感染しているといわれています。モザンビーク総人口は約 1860 万人ですので、これは成人の 13-16% が感染率していることを示しています。Sofala だけでは、成人の感染率は非常に高く、最新の記録では約 27% と記されています。そして、この率は増加し続けているといわれています。



これらの要因とプロジェクト活動を通して得られる経験から、Development Aid from People to People (DAPP) と World Vision は協力して、モザンビークで HIV/AIDS 蔓延の減少と孤児の支援を目的とするプロジェクトを確立しました。



2004 年、このプロジェクトは、Nhamatanda で 24 の幼稚園を管理しました。多くの幼稚園は、現地で入手可能な材料で、コミュニティ活動を通して建設されました。志願した 10 人の先生は訓練され、幼稚園の子供たちに初等教育を教えるために必要な、基本的な教材を与えられました。900 人の子供たちは、幼稚園教育から多くを学びました。25 の Literacy センター（読み書き、算数の基礎を教える場所）が、Nhamatanda で開設され、3,100 人の大人がそのプログラムに参加しました。25 の学校はプログラムに参加し、このプログラムは 10,000 人の子供たちに接触しようと試みました。

インド・Humana People to People

教育の権利は、一般的に同意されるものであり、国連憲章（第26条）に定められているように、人権の一つでもあります。初等教育に関する誓言は、ミレニアム開発目標「一般的な初等教育を成し遂げる事」に見ることが出来ます。この目標は、2015年までに、男女が平等に初等学校教育の完了を確実にすることを目標としています。

Times Data 2006によると、インドの学校を辞めた子供たちの数は、7,056,000でした。私たちの経験において、インドには学校を辞めた子供たちがもっとたくさん、存在すると言うことが出来ます。その理由としては、スラムの何十万もの家族は登録されず、公式統計にも記されていないという事実があるからです。多くの政府指導者たちは、子供たちに学校へ通わす努力を試みているが、最貧層にいる子供たちにそれを達することは困難でもあります。具体的には、伝統的に女性が教育を受けられない僻村で生活をしている何千人もの女の子たちと、無秩序な（違法）なスラムで生活している子供たちのことです。



Newsletter October 2007



学校を辞めた多くの子供たちは、経済的に彼らの家族を援助するために働かなければならないか、彼らの両親が作業中、家事手伝いや、兄弟の面倒を見なければなりません。このような彼らの特別な状況について述べるために、村のGirls Education Centresと大都市や街にある働く子供たちの学校を通して、インド・Humana People to Peopleは、活動地域において、貧しくて働く子供たちに対し、教育を提供することに決めました。

この主な内容は、子供たちに読み書きを教えることと、基礎数学と一般知識を教えることです。それと同時に、子供たちは初等教育に出席する可能性を強化する自信と生活技術を得ることが出来ます。子供たちは、インド・Humana People to Peopleが実施するセンターで学び、1～3年後には、小学校に入学することを奨励されます。



少女たちへの教育

インド・Humana People to Peopleはジャイプールと Dausa (Rajasthan) でコミュニティ開発プロジェクトを実行しています。この地域は、少女の識字率が非常に低いです。これまで、少女たちのための教育は、この地域の家族にとっては優先順位ではありませんでした。しかし、この問題は解決できるものとし、インド・Humana People to PeopleはGirls Education Centresを設立し始めました。

このセンターの設立目的は、学校にこれまで行ったことがない、または退学した9-14才の少女たちのために、初等教育の機会を与えることです。最初にGirls Education Centreで1～2年のコースを通い、後に地元の小学校に入学します。最初の2つのGirls Education Centresは、2005年にジャイプール地区(Rajasthan)、Virat Nagar Blockで始まりました。今日、インド・Humana People to Peopleは、19の少女たちの教育センターを運営します。

Mahuwaの4つの教育センターからの17人の少女たちと、Virat Nagarの15の教育センターからの32人の少女たちは、私立・政府学校に入学しました。

今日、私たちは、両親の先生会議への参加者増加から、両親の態度の変化に気づくことができます。まず最初に、両親はこれらの会議に出席することに対し、全く興味を持っていませんでした。集会へのコミュニティ参加と、教育センターで組織されるスポーツ活動への参加もまた、増加しました。地方自治は、本の寄付や試験時間に教師を提供することによる指導を支援しています。



Newsletter October 2007

働く子供たちのための学校



スラムの子供たちが、教育を受けに来ることを奨励するために、私たちは彼らの住居の近くに Academies for Working Children [(AWC) 働く子供たちのための学校] を開設しました。子供たちが来るのが可能なおき、授業は時々1日につき3時間あります。授業では、持続性を確保するために、学生の主体性を重視します。彼らは何を学ぶべきか、どれくらい学べたか、そして学習をどのように続けていくのか—このようなことを学生が自分たちで身につけることによって、彼ら自身が自分で学習を進めていくことが出来るからです。



プロジェクトスタッフと開発インストラクター (Development Instructors, ボランティア) の助けを借りて、スラムの家族たちは、彼らの子供たちのために AWC s の開設について議論しました。私たちの目的は、資金を集め、500の AWC s を設立することです。私たちは、現在、14の AWC s を500人以上の学生たちと一緒に運営しています。2006年初頭以来、インド・Humana People to People は14の AWC s を開始しました。1つは寺院、2つはコミュニティの建物、4つは賃貸部屋、その他、残りはコミュニティと一緒に建設された小屋で運営されています。インド・Humana People to People は、AWC s のための教師を育成します。教育の他にも、学生の両親との接触を保ち、学生が学校に来ることを確実にし、地元の寄付者からプロジェクトの資金を集めることは、彼ら教師の仕事でもあります。現在、500人の学生がスラムに在籍する Study Centre の授業に定期的に参加しています。

自立援助グループ (SHG)

1998年のAlwarでのこのプロジェクトの実施の間、インド・Humana People to Peopleは、根深い社会文化的な伝統と、経済と社会問題への女性の参加が制限されていることを認識しました。社会文化の壁 (例えばカースト制度) は、教育、女性の権利についての認識と知識の不足を生み出します。資本社会への接近と経済機会は、貧困から抜け出す努力をしている貧しい女性の障害になります。インド・Humana People to People はしたがって、女性の自立援助グループ (SHG) と共に働くことに決めました。SHGでは、メンバーである女性たちは、独立した収入源にアクセスすることが出来ます。また、女性の権利に関する認識や、彼らが社会、コミュニティと個人の問題について議論することで、公的な権限を与えることが出来ます。現在、Alwarのインド・Humana People to Peopleは、5,540人のメンバーと299の女性自立援助グループと共に働いています。現在、AlwarのHPPIは、5,540人のメンバーと299のWomenのSelf Help Groupsで働いています。資金は、45%は家族の生活 (健康問題、家のメンテナンス、教育など) に、55%は既存の農業と家畜活動を改善・向上するための活動に投資されました。



このような活動にご興味のある方・参加ご希望の方は cicd05@yahoo.co.jp までご連絡ください。

2008年3月・9月チームはモザンビークまたはインドへ!

2008年5月・11月チームはモザンビーク, ナミビア, マラウイへ!



College for International Co-operation and Development



Newsletter October 2007



College for International
Co-operation and Development
@ Winstead Hall, Patrington
Hull, HU12 0NP
England

Email: cicd05@yahoo.co.jp

Contact Details:

Tel: +44 (0)7813 854 298

+44 (0)1964 631 826

Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:

www.cicdvolunteer-japan.org.uk

www.drh-movement.org

www.humanapeopletopeople.org